

平成31年度使用

中学校特別の教科道徳用教科用図書の
選定に必要な資料

松江採択地区教科用図書採択協議会

平成31年度使用中学校特別の教科道徳用教科用図書 採択見本本一覧

記号	発行者名	発行者略称
A	東京書籍株式会社	東 書
B	学校図書株式会社	学 図
C	教育出版株式会社	教 出
D	光村図書出版株式会社	光 村
E	日本文教出版株式会社	日 文
F	日本教科書株式会社	日 科
G	株式会社学研教育みらい	学 研
H	廣済堂あかつき株式会社	廣あかつき

選定に必要な資料

(種目名 特別の教科 道徳)

NO1

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 題材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	(5) 各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6) その他
A	<ul style="list-style-type: none"> 各校の重点項目を入れられるように、30の教材で35時間分用意されている。また、5の付録教材も準備されており、本書だけで35時間以上行うこともできる。 教材名の前に生徒がこの時間で学習する内容の見通しが示されており、1単位時間を有効に使えるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科書の冒頭で、道徳の授業の在り方や話し合いの手引きが袋とじの4ページにわたって記述されている。 いじめや生命のことを考える内容を2～3時間連続で扱い、重点的に学習できるような構成を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材に関連のある漫画の1コマや登場人物の台詞を冒頭に紹介し、考えたいテーマへの導入が行いやすいように工夫されている。 生徒作文を多く載せており、身近な教材から考えられるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年「Action」(2回)のページがあり、生徒が話し合いや役割演技を通して考えを深められるように工夫されている。 新聞の投書に寄せられた様々な意見を紹介するなど、少人数の学級でも多様な考え方に触れることができるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の冒頭部分に関連のある教科等のマークがありわかりやすい。 各教材の最後につけられた「考えてみよう」では、複数の問いが設定されており、その最後には自分の生活を振り返ることができる問いが設定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考を見える化し、話し合い活動を活発にするために授業支援ツール(心情円、ホワイトボード)が巻末付録についている。 「つぶやき」の欄や直接考えを書き込むことができる欄が設けてあり、生徒の考えが残るようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材が30+付録5で構成されており35時間以上の授業を行うことができる。いじめや生命に関する内容を連続して扱うことができるように工夫されている。 思考を見える化し、話し合い活動を活発にするための授業支援ツールが工夫されている。
B	<ul style="list-style-type: none"> 35の教材が内容項目のバランスを考えて配列されている。 生徒の発達段階に応じて思考を深めていくことができるよう工夫されている。1年生では生徒作文や学校や身近な生活を題材にした教材が多用されているが、学年があがるにつれ、より広い視野から考えたり、社会とのつながりから多面的・多角的に思考を深めたりできる資料が採用されていて優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 4つの視点に関する題材が、学期ごとに偏りなく実施されることを念頭に配置されており、学期末には「学びの記録」のページを使って生徒の学びを振り返ることができよう工夫されている。 題材の冒頭文に、内容項目や本時のテーマ、現代的な課題について10のポイントのマークが明示しており、生徒が見通しをもって学習できるように工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野や人物を題材として幅広く扱うことで、生徒が興味、関心をもって学習を進めていけるよう配慮されている。 現代の中学生や同世代の子ども達が抱える身近な問題を積極的に扱っており、生徒が興味、関心をもって学習に向かうことができるよう工夫されている。 特にいじめ問題について扱っている題材は身近で自分自身を振り返ることができるもので、優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代的な課題について、3年生ではドラッグについて取り上げ、薬物乱用防止について学習できるようにしている。2年生ではセクシュアル・マイノリティが扱われ、現代の課題に触れられるように題材が工夫されている。 地域の課題である少子高齢化にあわせた題材が各学年含まれている。また、伝統文化や地域の行事、地域の自然環境とつなげやすい題材が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの題材の後に「心の扉」のページがあり、題材をふまえて自分を振り返り、実生活に生かせるような発問が工夫されている。 3年生ではほとんどの題材が他教科や特活などとの関連があり、他教科での道徳教育とつながることで、思考を深めることができ、優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文が読みやすくなるようデザインされた字体が使われている。また、イラストや写真を多用して見やすくなるよう配慮がなされている。 新聞記事の抜粋部分や解説部分などの字体を変えることで本文との区別をつけるなど、生徒の読みやすさや分かりやすさを意識した工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発達段階に応じて、題材を有効に配置している。また、選択された題材が、生徒の興味関心を集めやすく現代的な課題に適合しており、生徒の思考を深め、自分の生活を振り返ることができるものであって非常に優れている。 生徒の学びやすさを考慮し、レイアウトや構成がなされており、優れている。

選定に必要な資料

(種目名 特別の教科 道徳)

NO2

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 題材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	(5) 各教科等及び実生活との関連についての工夫		(6) その他
C	<p>・地域教材等をいられるように30の教材が用意されている。また、補充教材5を用意しているため、本書だけで35時間を行うことも可能となっている。</p> <p>・教材名の下に導入となる発問が記されており、生徒がこの時間で学習する内容の見通しをもって教材を読むことができるよう工夫されている。</p>	<p>・全学年巻頭に学年間をつなぐページが掲載されており、学習のつながりを意識した配慮がなされている。</p> <p>・短い教材や、見てすぐにわかる教材などが多く扱われている。また、教材以外の掲載ページを極力省くことでコンパクトな構成になっているため生徒、授業者ともに学習を進めやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>・「けやき中」シリーズ「雅司、由紀、美佐」シリーズが3年間通して載っており、同世代の主人公を通して自分自身を見つめる工夫がなされている。</p> <p>・3年「ハゲワシと少女」など、随所にインパクトのある写真を掲載することで、生徒の興味、関心を高める工夫がなされている。</p>	<p>・直接教材・間接教材を使って、いじめ・生命・情報の問題を3年間通して体系的に、バランス良く配置している。</p> <p>・各学年で「やってみよう」のページが1～2ページ設けられており、役割演技等の体験的な学習をすることができるように工夫されている。</p> <p>・2年「釧路湿原を守れ」では宍道湖中海と関連付けて考えることができる。</p>	<p>・「臓器移植」の教材を1年では受ける立場として、3年では提供する立場として扱うことで命の大切さを多様な見方で考える工夫がされている。</p> <p>・3年「死刑制度を考える」では社会科で扱う裁判員制度の学習とあわせて考えることができるよう工夫されている。</p>	<p>・全学年ともに巻末に「都道府県にゆかりのある人物とその言葉」が掲載されており、郷土についての理解が深められる工夫がされている。</p> <p>・巻末に設けられている振り返りの欄では、保護者記入欄もあり、家庭とのつながりも配慮されている。</p>	<p>・教材が30+補充5で構成されており、生命、いじめ、情報の問題について3年間を通して体系的に学習することを示す工夫が見られる。</p> <p>・教材名の下に導入となる発問が記され、生徒が学習の見通しを持てるよう工夫されている。</p>
D	<p>・34の教材が用意されている。補充教材2が用意してあり、合計36の教材がある。</p> <p>・読み物資料に加えて、実際の写真をふんだんに活用し、場面展開を理解しやすい内容となっている。</p>	<p>・1年を4つのシーズンにわけて系統立てて学ぶことで、毎時間の授業がつながり、1年間で道徳的価値についての学びを深めることができるような構成になっている。</p> <p>・いじめや情報モラルなどの現代的課題は教材とコラムで学習できるようになっている。</p>	<p>・ヨシタケさんが描かれた漫画や有名人直筆のメッセージが掲載されており、生徒の興味を引く工夫がされている。</p> <p>・本編は縦書き、ワークシートのページは横書きでレイアウトされている。また、ワークシートのページでは、ふちに黄色を基調とした模様が描かれていて、視覚的にわかりやすい作りとなっている。</p>	<p>・各教材の終末に記載されている「学びのテーマ」の「つなげよう」では、この時間の学習を様々な学びへと広げる工夫がしてあり、教育活動全体での道徳教育への配慮がされている。</p>	<p>・巻末付録に、教材ごとに他教科や現代的な課題の関連がわかる表がついており、授業者が道徳科の学習を他教科や現代的な課題と結びつきやすいように工夫されている。</p> <p>・コラムには実生活につながる情報が記載されている。</p>	<p>・補助教材では、日本各地の玩具(1年)や世界遺産(2年)、先駆者(3年)を知ること、全学年とも郷土についての理解を深める工夫がされている。</p>	<p>・教材が34+補充2で構成され、1年を4つのシーズンに分けて構成され、系統立てて学ぶ工夫がされている。</p> <p>・各教材の終末に記載されている「学びのテーマ」には、考える観点や見方を変えるような問いや、学習を他に広げることができるような問いが設定されている。</p>

選定に必要な資料

(種目名 特別の教科 道徳)

NO3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 題材の選択や構成	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	(5) 各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6) その他	
E	<p>・ひとつの教材に含まれる資料が充実しており、道徳的な価値に対して様々な視点で考えを深めやすい。</p> <p>・教材の表題に作者や登場人物の写真や絵を添え、関心を高め内容を理解しやすくする工夫がされている。また、表題の上に主題が記されており、授業の見通しを持ちやすくしている。</p>	<p>・全学年にユニット「『いじめ』と向き合う」が設けられ、いじめについて考えを深める教材を連続して行うことで、効果的な学習ができるよう構成が工夫されている。</p> <p>・「学習の進め方」というページでは生徒が道徳的価値について考え、議論するための発問や学習の流れが示されており、より効果的な学習ができるよう工夫されている。</p>	<p>・「考えてみよう」「自分に+1(プラスワン)」をヒントとすることで、考えを深め、自分のこととして意識を向けることができるような工夫がされている。</p> <p>・写真や色彩豊かな挿絵が多用されており、生徒が視覚的イメージからも考えを深めることができるような工夫が見られる。</p>	<p>・「学習の進め方」というページが各学年ともに複数掲載されており、役割演技等の体験的な学習ができるよう工夫されている。</p> <p>・中学生を取り巻く現代的な諸問題について、2～3時間の連続したまとまりのなかで学習できるようになっている。いじめについては3年間で重点的、継続的に学習できるようになっている。</p>	<p>・巻末に他教科や特別活動との関連がわかる表が掲載されているので、他教科との関連した指導ができるよう工夫されている。</p> <p>・「プラットホーム」では実生活で生かせるような情報が記載されている。</p>	<p>・別冊のノートがあり、写真やイラスト入りで見やすくされている。</p> <p>・道徳ノートでは、学期末の振り返り欄に保護者記入欄が設けられ、自分の成長を感じることができるよう工夫されている。</p>	<p>・別冊「道徳ノート」は教科書に対応しており、カラー印刷で見やすさや使いやすさに工夫が見られる。</p> <p>・全学年のユニット「『いじめ』と向き合う」では、教材を連続的に扱うことでいじめに関する学習に適した構成になっている。</p>
F	<p>・複数の教材の終末がオープンエンドになっており、生徒が主体的に続きを考えたり話し合ったりするなかで多面的、多角的な価値への気づきや発見を促しやすい工夫がなされている。</p> <p>・37の教材が掲載されており、学校の実態に応じて選択できるようになっている。</p>	<p>・教材が4つの視点ごとにまとめて配列されており、生徒が主体的に続きを考えたり話し合ったりするなかで多面的、多角的な価値への気づきや発見を促しやすい工夫がなされている。</p> <p>・教材以外の資料等を多用せず、35時間を教材に集中して取り組むことができるような配慮がなされている。</p>	<p>・教材の本編を縦書きで記し、資料を横書きで記すことにより生徒が読む際に区別しやすくなっている。</p> <p>・「リョウとマキ」という教材は全学年にわたって掲載されており、二人の登場人物の学年ごとの成長を通して考えを深めながら、次年度への関心を持つことができるよう工夫されている。</p>	<p>・2年「こんなときどうしたらいいの」では障害者差別解消法が明記され、2年「だから歌い続ける」ではセクシュアル・マイノリティについて取り上げるなど、様々な人権問題について考えを深めるための工夫がされている。</p> <p>・3年「小泉八雲が見た出雲の国」では異文化と向き合うことについて考え、話し合うよう工夫されている。</p>	<p>・「もっと知りたい」「考えてみよう」「話してみよう」のページでは普段の生活場面を想定して考えさせることで、主体的・対話的に学習し、実生活へ生かせるように工夫されている。</p>	<p>・「生き方」をテーマに学年で教科書名が変更されており、表紙の写真には日本の過去、現在、未来を象徴するものを掲載し、時代の流れや人間の営みの変化をイメージさせるものになるよう工夫されている。</p>	<p>・教材が4つの視点ごとにまとめて配列されており、授業者が自らの指導計画や創意工夫で柔軟に活用できるように工夫されている。</p> <p>・教材の終末をオープンエンドにすることで生徒が主体的に教材に向き合い、自分の考えを広げていくことができるよう工夫されている。</p>

選定に必要な資料

(種目名 特別の教科 道徳)

NO4

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	(1) 内容, 程度, 分量等	(2) 題材の選択や構成等	(3) 興味・関心を高める工夫	(4) 教科の特性, 県の実態や課題への適合等	(5) 各教科等及び実生活との関連についての工夫	(6) その他	
G	<ul style="list-style-type: none"> 内容項目のバランスを考えて35の教材が配置されている。 A4版の大きめの書式を採用し、ゆとりのある紙面構成となっている。他社と比べて薄くて軽い。余白もゆったりとしていて、生徒の読みやすさに配慮がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で「地球と未来のために」「スポーツの世界で共に輝く」の二つのテーマがユニット教材で構成されており、繰り返し学ぶことによって学びを深めることができるよう工夫されている。 長い間道徳の資料として扱われてきた教材が多数掲載されており、現代的な教材だけでなく普遍的な教材についても十分な学習ができるよう配慮がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材冒頭に主題名を記載していないため、生徒が興味、関心をもって主体的に本教材での課題を発見しようとするができるよう工夫されている。 美しい写真や、カラーのグラフ、漫画などが大きく掲載されており、視覚的に興味をひく工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめについて直接的に扱っている教材と間接的に扱っている教材をそれぞれ活用することで、3年間を通して様々な立場からいじめについて考えることができるよう工夫されている。 3年「礼儀って何」や「日本の未来へデビュー」のように、様々な考え方を紹介することで、少人数のクラスにおいても多面的・多角的に考えられるよう工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻末に他教科や特別活動との関連がわかる表が掲載されているので、他教科との関連した指導ができるよう工夫されている。 「クローズアップ」のページでは学習の広がりや実生活との結びつきがしやすいように工夫されている。また、「クローズアッププラス」では「生命尊重」「いじめ防止」につながる教材が取り入れられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で情報モラルが取り上げられており、タイトルの下に「情報モラル」と示すことで生徒が意識して学習できるように工夫されている。 各教材の終末には、内容項目に迫るような問いが1つだけ設定してある。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教材の終末に内容項目に迫ることができる問いを1つだけ設け、授業者が発問を創意工夫することによって様々な視点から生徒の考えを広げていくことができるような配慮がなされている。 A4版の大きめの書式にすることで紙面全体がゆとりあるものになっており、生徒の読みやすさへの配慮が見られる。
H	<ul style="list-style-type: none"> 35の教材が、内容項目のバランスを考えて配列されており、目次がページ順と項目別の2種類ある点で工夫されている。 「中学生の道徳ノート」にも文章や資料がカラーで掲載されており、より深く考えたり学んだりすることができるようになっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の終末にある「学習の手がかり」では授業のめあてが示されているが、学年が上がるにしたがって道徳的価値の明示が減り、生徒が教材を通して主体的に道徳的価値を見出したり気付いたりできるような配慮がなされている。 1つの教材に対して、複数の内容項目が設定されている教材があり、学校の実態に応じて指導できるよう工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材冒頭に主題名を記載していないため、生徒が興味、関心をもって主体的に課題を発見しようとするができるよう工夫されている。 考えたり話し合ったりする観点から「学習の手がかり」→「考えを広げる・深める」という二段構成になっており、生徒の発達段階に合わせた授業展開が行いやすい工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻末には情報モラルについての特集や現代的な課題に関するページがあり、発達段階に応じて学習を深め、実生活に結び付けることができるよう工夫されている。 授業者の創意工夫によって伝統文化や地域の行事、地域の自然環境とつなげることができる教材が含まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの教材の後に、「thinking」として教材に関連するコラムを設け、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別冊のノートがついており、関連ページも記載してある。内容項目ごとにまとめる形式になっており、教材同士の関連をもたせて道徳的価値を深く理解できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 別冊のノートがついており、資料や文章を載せることでより深く主題についての学習ができるよう工夫されている。 教材の冒頭には主題名などが記号で記載してあるため、生徒が自らの感じ方を大切にしながら道徳的価値に気付いたり考えを深めたりすることができるよう配慮がなされている。